

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071400693		
法人名	医療法人おがた整形外科医院		
事業所名	高齢者在宅複合施設サザン		
所在地	福岡県福岡市早良区次郎丸1丁目29番40号		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果確定日	平成26年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

開設母体である医療法人が地域に根ざして36年、当施設が開設13年を経過し、この地域に根差し、この地域に於いてはならない存在になっています。「笑顔のためには何でもする」という理事長の想いを共有するスタッフが、献身的に利用者にとふれあっています。地域の健康教室開催、地域住民が参加できる納涼祭の開催、町内夏祭りへの出店参加、灯明祭りなど自治体校区の行事への入居者、スタッフの参加など、地域住民として地域を盛り上げている。5ユニット(45人)あることで、閉鎖的な環境にならず、常に、前を見据えたケアをユニット毎が相互に、競い、高め合い、助け合いながら運営している。状態のかけ離れた利用者をひとつのユニットで一元的にケアするのではなく、時間の経過とともに変化する、認知症の進行度合い、身体状況の変化に合わせてユニット間での移動を可能としている為、利用者の残存能力、機能回復、生きがい向上が適切に行われるようなケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「高齢者在宅複合施設サザン」は通所介護と併設型の5ユニットグループホームで、建物はホテルを思わせる1階のフロントに迎えられ、2階から1フロアずつユニットが配置される。各ユニットは中庭やテラスを挟み回廊式になっており、明るいろびやかな山並みや街並みが望める。入居者と職員が相談し写真や作品等を飾り、それぞれ個性あるユニットになっており、近くには母体の整形外科や2箇所の高齢者在宅複合施設があり、協力や支援体制が取られている。地域住民との交流も深く、体験学習を受入れ、夏祭りは家族や地域住民の参加もあり毎年盛大に開催されている。入居者の希望に応じて職員付き添いで買物や外食に行く事も多く、食事もシェフ等により工夫されたメニューで、フルコースやバイキングもあり、旬を先取りした美味しい食事が提供されている。職員の定着率も高く、慣れた職員による安心安全な介護が提供出来ており、入居者の満足を得たいと言う職員の熱い思いの実現と、今後更なる飛躍が望める施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や研修においても理念を頭に入れている。各ユニットにも掲示し、実践につなげている。	開設当初からある理事長の理念を、各ユニット入口に掲示し、職員と共有化を図っている。理念を要約した「笑顔を引き出そう」という共通認識の下、笑顔で接し、利用者の要望する事を受け入れて対応している。日々理念を振り返りながら、毎月のミーティングでも話し合い、さらなる実践に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物も日常的に行っている。施設の夏祭り以外にも地域の夏祭りや灯明祭り、清掃活動等、交流がある。	町内会に入り、2カ月に1回、職員や入居者と一緒に地域河川の清掃活動を行なっている。灯明祭りにも参加し、事業所の夏祭りには地域住民の参加も多い。ボランティアや各小中学校の職場体験や、高校や福祉大学等の実習も受け入れており、事業所の職場体験を経験してその後入社した職員もいる。散歩の時なども日常的に挨拶を交わし、地域との交流や貢献も密に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学生、社会人、中、高生と幅広く職場実習体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族の要望を取り入れ、地域の行事にも参加するなど、運営向上に役立っている。	運営推進会議は2カ月に1回開催され、議事録は1階のカウンターに設置し、いつでも閲覧可能である。会議は、自治会長や家族代表や包括支援センター等の出席があり、包括支援センターから情報や研修会の案内等を頂くこともある。事業所と隣の公民館との間のフェンスを災害時に抜ける事が出来る様に、と議題に上り、現在検討もされており、会議を運営に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に役所に出向き、アドバイスを受れたり、情報交換を行っている。	市役所や包括支援センターには、生活相談員が電話したり直接相談に行っている。困難事例や、入居当初に身寄りが無い方等の相談等を行い対応して貰っており、入居後に成年後見人制度を活用した方も3名いる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束を理解し、拘束は行わず、玄関施錠せず、自由に出入りできる。	外部研修に参加し、年1~2回伝達研修も行い、職員も拘束行為を理解してスピーチロックや身体拘束は全く行われていない。1階フロントに職員が常駐し、入出時の見守りが行なわれている為、玄関の施錠やセンサーも無く自由に出入り出来る。理解力低下で出て行かれる入居者にはマンツーマンで職員が付き添って出掛け、落ち着かれてから事業所へ戻る対応が取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に参加し、徹底している。		

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、マニュアルを準備し対応している。	各ユニットの入口に、権利擁護に関するファイル等を設置し、年1回マニュアルや事例を通して、内部研修を行なっている。事業所に入居後に成年後見人制度を利用された利用者もあり、いつでも相談対応出来る体制が整えられている。外部研修に参加し、年1～2回は事例等を参考にしたり、内部へ伝達研修を行なっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点があれば、管理者、相談員が話を聞き、改定などを理解して頂ける様、十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口も設置しているが、公的相談窓口の連絡先も掲示し、意見要望を受け入れている。	家族の来訪も多く、月1～2回はコミュニケーションをとって情報交換しており、要望等は聞き取りを行なってすぐに申し送り等で話し合っており、結果報告もしている。入居者のサービス満足度を調査し、調査結果を年1回の定例改善カンファレンスで話し合い、結果を運営に反映させ改善している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見を聞いた上で定例会議、グループホームリーダー会議を行い、意見、要望が反映されている。	年間の個人目標を設定し、管理者による個人面談も年2回行なわれており、職員の要望や希望等も言い易く、受け入れて貰える環境である。職員が各ユニット毎にいろいろな面で使用できる予算の計上を提案し、それを元に毎月予算が計上される。活用には入居者と職員が相談し、喜ばれる品物等の購入等に充てられていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自由に各ユニット作りが出来、努力した分、給与に反映されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢も幅広く、他業種からも多く採用し、能力に応じた部署に配置している。	職員の採用にあたっては年齢や性別の制限は設けられておらず、60歳過ぎ職員の就労もあり、全員正社員で採用されている。新入職員の教育や研修も充実しており、育児休暇も2年取得でき、利用中の職員もいる。職員の資格取得へ向けて休みや、希望休等も取れる環境で退職者も少なく、安心して就労されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修やマニュアルの準備、グループホーム協議会の研修に参加している。	事業所の事務長が人権啓発推進委員をしており、新入職員のオリエンテーション時に法令順守や倫理の研修を行っている。グループホーム協議会や法人の人権教育や啓発活動の研修にも、担当職員が参加し、内部へ伝達研修を行なっている。	

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自、研修に参加できるように配慮し、グループホーム協議会の研修にも、経験に合わせて参加できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修でも、他施設と交流出来る時間があり、情報交換し、サービス向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期相談より、本人、家族の要望、不安を聞き入れ、十分把握することで安心して頂いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期相談から家族の不安、要望を聞き入れ、安心して入居できる環境を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター、ケアマネージャーと連絡を取り、必要としているサービスを提供できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にし、利用者に教えてもらいながら生活し、サービスを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、又、施設行事にも参加してもらっている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来たり、電話連絡される。行きたい所へはいつでも行けるように支援している。	地元の入居者が多く、デイサービス利用中の知人との交流があり、以前の趣味を生かし、デイサービスでのサークル活動(習字・絵手紙・カラオケ・編み物等)に参加されている。帰宅願望がある入居者には、毎日車で自宅まで連れて行き、落ち着いてもらったこともある。事業所でも年賀状や暑中見舞いを出したり、3か月に1回事業所の広報誌を家族に手渡しして近況報告を行なっている。	

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者に寄り添い、声掛け、スキンシップを取り、孤立しないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、相談、悩みごとの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や生活歴を考慮し、希望を把握している。	事業所独自のアセスメントシートを使用し、直接伝える事の出来ない入居者は家族の面会時等に聞き取りを行ったり、平素の会話や表情等の状況を家族に伝えて確認し、意向の把握に努めている。アセスメントシートは、状態変化時や介護計画の更新時に見直しされている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を十分把握し、これまでと同じように生活できるようサポートしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する状態を朝夕の申し送りを行い、スタッフ皆が現状把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットでのカンファレンスを行い、利用者、家族の要望を取り入れ、チーム一丸となつて、計画作成している。	毎日の経過記録の中で介護計画に添って、医療面も含めて記録している。家族からの情報も得て、職員やユニットリーダー、ケアマネジャー等が参加し、月1回モニタリングを行い、6カ月に1回の担当者会議で介護計画の見直しも行う。職員に介護計画の共有化を図り、日々のケアの向上に繋げている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践したこと、気づきを記録し、申し送りやカンファレンスで話し合い、プランの見直しを行っている。		

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて急な受診にも対応し、家族の要望をサービスに取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの先生による趣味活動があり、楽しまれている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を主治医とし、投薬、受診の指示を受け、本人に応じている。	入居前からの主治医に受診している入居者もおり、家族送迎で受診時は、施設での状況やバイタル等の情報を提供している。施設協力医へは、職員や看護師の送迎で受診し、緊急時も24時間対応可能であり、予防接種等は施設で受けられる。受診時の状況は、看護師や職員が医師や家族から聞き取りを行い、夕方の送りや経過記録等で情報の共有を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡が取れ、受診や状況に合った対応がとれるようになっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供、電話や直接、病院に行き、状態把握し、早期退院できるよう、情報交換している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前にターミナルケアの説明を行っている。家族、主治医、職員と十分話し合い、ターミナルケアを行っている。	看取りについては、入居時に説明し、家族等に同意を得ている。重度化した場合は主治医が説明し、希望があればターミナルケアの同意を得て対応できる。主治医を含めて訪問看護職員や施設看護師や職員等とターミナルケアの直前研修を行い、随時情報を共有し対応している。今までに1名の入居者を対応した事があるが、現在は状態改善し、少し元気になられている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対しての研修を行っており、医師、看護師の指導を受けている。		

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練を年2回行い、地域の方とも、運営推進会議で話し合い、協力体制がとれている。	年2回、消防署立ち合いや地域住民参加で避難訓練を夜間も想定して行っている。地域集会所での避難訓練にも参加し、防災協定を交わして災害時の地域住民との協力体制の構築はできている。事業所が町内会での避難場所となっており、食糧の備蓄も約1000人分が確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や会議でも話し合い、状況に応じて、個別に話したり、言葉かけには注意を払っている。	入社時のオリエンテーション時や、年1回の内部研修で人権やプライバシーの保護に関する研修を行っている。写真の掲示等もすべて家族の同意を取り了承を得ており、職員は各利用者に対しても言葉遣いや、状況に配慮した声掛けが行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い、言葉かけを行い、信頼関係を築き、会話や生活の中から、希望等を引き出している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、日々のスケジュールは利用者の方、優先で決めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やマニキュア等、おしゃれも声掛けやお手伝いし、楽しんで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節を感じる事ができ、一緒に会話を楽しみながら、準備、片付けされ、見ている方も喜ばれる。	管理栄養士やプロのシェフがメニューを決め、調理しており、各ユニットで一部味つけ等を工夫して提供されている。旬の食材をいち早く取り入れ、栄養バランスの良い食事で美味しく食べて貰い、体調良く生き生き過ごす工夫がされており、面会時には家族にも同じ食事を提供できる。フルコースやバイキングや行事食等もあり、各ユニットで外食やカフェでの軽食の機会も多く、食事を楽しまれている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が十分摂れない方には声掛けし、カリウム、カロリー制限等、その人に合った対応をしている。		

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けし、食後の口腔ケアを促している。出来ない方は介助や見守りを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	不快にならないような声掛けをし、その人に合った誘導を行い、失禁減少に努めている。	各ユニットに5箇所の車椅子対応の広いトイレがある。水分摂取にも気を付け、排泄チェック表も記入し、回りに気づかれ無い様に声掛けしたり、トイレを嫌がられる入居者には、立って移動される時にさり気ない声掛けで、トイレに誘導し介助している。リハパンツ使用されていた入居者が、夜間のみのリハパンツ使用に改善されており、改善へ向けての支援が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や起床時には水分補給を行い、栄養士による便秘予防メニューにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間、曜日は決めておらず、本人の入りたい時に入浴出来る。	各ユニットに大きな窓の明るい個浴があり、入居者毎に湯の入れ替えをしており、好みの湯温で、毎日や時間帯問わず、いつでも入浴可能である。職員の介助や見守りで入浴出来、事業所備えつけのタオルも使用できる。好みのシャンプー等の持ち込み可能で、薔薇を浮かしたり、薬湯(ハーブ)等の工夫がされており、1階大浴場の温泉も利用でき喜ばれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はなく、その人に合わせ就寝される。日中は散歩、趣味活動をされ、よく休まれる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の看護師から薬の説明、指導を受け定期も受け、症状の変化にも対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った家事をして頂き、趣味活動も個々に合わせ楽しめる。		

H26自己・外部評価表(GHサザン)11.19

自己	外部	項目	自己評価(カモミール)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する日や場所を利用者とも一緒に決めてはいるが、その日の気分によって、外出や買い物などに行っている。	毎日の様に散歩が行われており、入居者の希望で、スーパーに買い物に行ったり、図書館を利用して、季節の花見やドライブや外出に行く機会も多い。事業所の1階が120名対応のデイサービス施設となっており、1階の催し事の生け花等に参加したり、知り合いとの語らいも楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を持って買い物に出かけている。金銭管理が出来ない方も受付で管理し、買い物に出かけている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話して頂けるようにしている。手紙が届いた時だけでなく、年賀状や暑中見舞いなど、やり取りが出来る支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさと湿度調整し、利用者との季節感あるものを作ったり、飾ったりしている。	各ユニットは左右対称で、回廊式で其々庭園があり、観葉植物や花が飾られ、テーブル等が置かれ、コーヒーを楽しまれたり、語らいの場になっている。大窓のある明るいリビングも其々ユニット毎に雰囲気の違いが置かれ、入居者と職員が相談しながら、写真や花等を工夫して飾られており、其々個性溢れるユニットとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファでは仲良く会話してある。リビング以外もベンチを用意し、ひとりでも過ごしてもらえるスペースを作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや作品、思い出品を持参してもらい、その人らしい、住みやすい居室となっている。	各居室の木製ドアは、ロンドンから取り寄せたビクトリア調の約120年前の其々異なるステンドグラスがはめ込まれ、明るい木造りのゆったりとした室内は、備え付けのベッドや床頭台や机、椅子、洋筆筒、洗面台等が設置されており、馴染みの物の持ち込みは自由で、事業所で布団やタオルも準備されており、体一つでも安心して入居可能である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、手すりもあり、自立した生活が送れるようになっている。必要に応じて介助を行っている。		